

自己評価報告書(最終報告)

報告者

自然系コース(理科)
／佐藤 勝幸

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

○テーマとして「小学校や中学校における理科指導のリーダーシップを有する教員育成のためのプログラム開発と試行」を考えている。
○計画内容は、今後検討していく必要があるが、科学的思考力、データ処理での統計的な分析力、教材開発力の育成を目指すプログラム開発を行い、その一部試行を予定している。理科分野の一部について試行的に開発する予定である。

2. 点検・評価

○平成25年度「次世代科学者育成プログラム」の採択を機に科学的思考力、データ処理での統計的な分析力、教材開発力の育成を目指すプログラム開発を計画し、具体化を進めている。現在は計画段階であるが、今後一部施行しながら具体的な内容を整える予定である。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

○Webページの充実をはかり、進学意欲を高めよう内容・構成になるよう工夫する。
○学会や研修会などの機会を利用し、大学院の宣伝・広報に努める。
○外部からの個人的な問い合わせについて、丁寧に説明し本学の特色や魅力を伝える。

2. 点検・評価

○本年もWebページの充実をはかり、大学院進学へ意欲を高めるような内容構成に努めた。Webをみた受験生からの問い合わせがあった。
○各種研究集会や教育支援アドバイザーとして助言指導した「高校学力向上推進プロジェクト事業」(兵庫県立淡路三原高等学校)で宣伝・広報を行った。
○Web情報をもとにしたEメールによる問い合わせがあり、来年度受験する旨の連絡を受けた。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- 前年に引き続き、教育実践力を養うため、模擬授業を取り入れた授業を行う。
- 特に、理科教育の特徴、小・中・高校での単元構成や今求められている教材についてわかりやすく指導する。
- 基礎的な知識や実験・観察の技能が身に付くような指導を試みる。

2. 点検・評価

- 前年度に引き続き、模擬授業を取り入れた授業を行った。初等理科教育論で実験・観察を取り入れた授業実践を行っているため、理科コース以外の学生の実験・観察のスキルアップになっている。授業後のアンケートでは、理科授業のありがたや授業に対する心構えを理解でき、自信を持って理科授業に取り組めるようになったという感想がよせられている。
- 理科教育学の内容、小・中・高校での単元構成や求められる教材について丁寧な指導を行った。
- 生物実験、初等理科教育論などで基本的な知識や実験・観察のスキルを実践的な操作を通じて指導した。

II-2. 研究

1. 目標・計画

- 理科教育の授業改善に関する研究テーマで研究を進めるとともに、学会等で成果を発表し論文としてまとめる。
- 空气中を浮遊する微小生物に関する研究や核移植による生物種間の近縁関係を考察する研究を行う予定である。
- 特別経費(プロジェクト分)「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」を推進する。

2. 点検・評価

- アンケート調査を行い、模擬授業を通じて理科授業に対する学生の変容について検証した。データ集計から模擬授業の有効性と課題が明らかになった。現在論文としてまとめるところである。
- 特に空气中を浮遊する微小生物に関する研究を行い、日常的に、またビルの7階程度までの高さで、空气中を浮遊する微小生物の存在を明らかにしている。核移植による実験は、現在装置の調整を終え、実験に取りかかっている。
- 特別経費(プロジェクト分)「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」を教員養成モデルカリキュラム研究開発委員会委員長として推進に努め、2回のシンポジウムと報告書をまとめた。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- 人権教育推進委員、実地教育専門部会委員として本学の運営に貢献する。
- 長期履修学生支援センター所長として長期履修学生の資質向上に努める。
- 学部2年次のクラス担当教員として学生の教育的支援に努める。

2. 点検・評価

- 人権教育推進委員、実地教育専門部会委員として本学の運営にあたった。
- 長期履修学生支援センター所長として長期履修学生の資質向上に努めた。
- 学部2年次のクラス担当教員として学生の教育的支援に努めた。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- 附属学校園における研究会での協力・援助、附属学校園の教員との理科教育分野での意見交換や連携に努める。
- 教育支援アドバイザーなどを通じて地域・社会との連携を積極的に行い、社会貢献に努める。
- 本年度も、機会ある毎に国際協力に努める。

2. 点検・評価

- 附属学校園における研究会等での理科教育分野での意見交換や連携に努めた。特に今後の研究のあり方などについて相互に認識を深めた。
- 兵庫県立淡路三原高等学校で行われた「高校学力向上推進プロジェクト事業」(平成24年11月13日(火))で助言指導を行った。また、徳島県立城南高等学校SSH事業の一環で平成24年12月12日(水)本学で実験指導を行った。
- 帰国外国人留学生短期研究制度(平成24年9月~11月)で来学したケニアからの留学生を助言・指導した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

環太平洋地域教師教育国際シンポジウム(平成24年7月6日(金)、鳴門教育大学)で事例発表を行い、本学の教員養成コア・カリキュラムと先導的委託事業での成果を報告した。